

— 令 和 6 年 度 —

高知県公立高等学校入学者選抜における
学力検査の結果分析

令 和 6 年 7 月

高 知 県 教 育 委 員 会

目 次

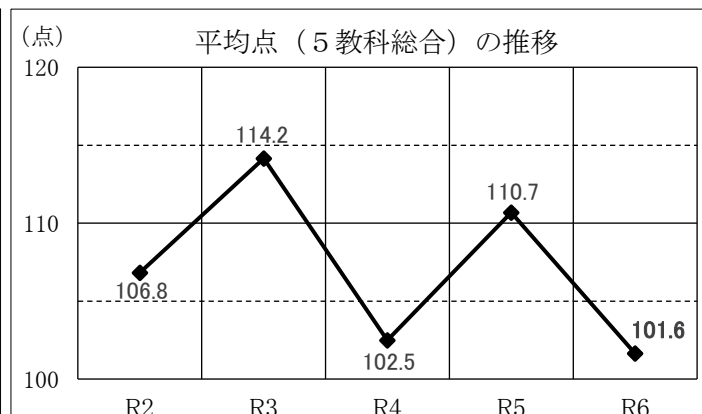
令和6年度高知県公立高等学校入学者選抜における学力検査の結果分析のまとめ	1
I 令和6年度高知県公立高等学校入学者選抜の概要	2
II 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の実施結果	6
1 学力検査出題の方針	
2 学力検査結果の全体的な状況	
III 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の教科別状況	10
国語 10～11	
社会 12～13	
数学 14～16	
理科 17～19	
英語 20～21	

令和6年度高知県公立高等学校入学者選抜における学力検査の結果分析のまとめ
(A日程及び連携型中高一貫教育校に係る特別選抜)

【Ⅰ】入学者選抜の概要

受検者数・合格率の推移		
	受検者数	合格率
令和2年度	3,836名	92.4%
令和3年度	3,632名	92.4%
令和4年度	3,696名	91.1%
令和5年度	3,543名	93.0%
令和6年度	3,673名	91.3%

【Ⅱ】学力検査の実施結果



【Ⅲ】学力検査の教科別状況

結果の分析	
総合	5教科総合の平均点は101.6点で、昨年度より9.1点下がった。200点以上の受検者数がほぼ半減し、受検者の3割近くが74点以下となった。各教科とも、知識・技能が一定程度定着していることがうかがえるが、分野や領域によって習得の状況にばらつきがある。また、思考・判断する場面で知識・技能を十分に使いこなせておらず、「生きて働く」水準にまでは達していない。事象や概念を言葉で説明したり、自分の意見や考えを文章で表現したりする力にも弱さがみられる。
国語	平均点は21.7点で、昨年度より0.4点上がった。漢字の読み、行書の特徴、助動詞の働き、情報の取り出しについては一定の力が認められる。漢字の書き、言葉の特徴や使い方、情報と情報の関係についての理解が十分とは言えない。また、目的に応じて文章の内容を把握して要約することに課題がある。
社会	平均点は19.0点で、昨年度より6.1点下がった。全分野を通して、基本的事項の定着が十分とは言えず、社会的事象に関してその内容や背景について適切に表現する力や、資料から情報を読み取り、既習事項と関連付けて思考・判断・表現する力に課題がある。また、歴史的分野において、各時代の特徴を踏まえ、歴史の大きな流れを捉える力が十分ではない。
数学	平均点は18.3点で、昨年度より0.9点下がった。「数と式」、「データの活用」の領域における基礎的・基本的事項については、一定の力が付いていると思われるが、文字を用いて式を表すことや、等式を変形することなどに課題がみられる。「図形」、「関数」の領域については、基礎的・基本的事項の定着が不十分である。
理科	平均点は19.9点と昨年度に比べ0.6点下がった。第1分野・第2分野ともに、科学的に思考するための基盤となる、科学的用語や事象についての知識及び観察、実験の技能において、一定の習得が認められる。一方で、特に第1分野において、実験をイメージで理解したり、結果を数的に正しく処理したり、既習事項と関連づけて考察したり表現したりする力には課題がみられる。
英語	平均点は22.9点で、昨年度より1.7点下がった。日常的な話題について、情報を聞き取る力は概ね身に付いている。聞いたり読んだりした話題に対して自分の考えを英語で書く際には、考えを構成するのに必要な情報まで十分に把握することができていない。また、自分の考えを正確に表現することができておらず、基本的な語彙や文法事項の定着に課題がある。

【Ⅳ】今後の学習指導の重点項目

各教科で主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行い、基礎的・基本的な知識・技能の習得を一層図るとともに、教科横断的に知識・技能を活用して思考・判断・表現する力を育む。

I 令和6年度高知県公立高等学校入学者選抜の概要

1 全体

	入学定員	合格者総数
全 日 制	5,090	3,649
多 部 制	200	89
定 時 制	560	58
合 計	5,850	3,796

(併設中学校からの進学者を含む。)

○定員充足率 (%)		前年比 (ポイント)
全日制の課程	71.7	+1.4
多部制の課程	44.5	+7.0
定時制の課程	10.4	+2.0

2 (1)A日程

	A日程定員	受検者数	合格者数
全 日 制	5,090	3,516	3,211
多 部 制	120	69	56
合 計	5,210	3,585	3,267

○合格率 (%)		前年比 (ポイント)	○不合格者数 (人)	前年比 (人)
全日制の課程	91.3	-1.8	全日制の課程	305 +71
多部制の課程	81.2	+0.9	多部制の課程	13 0

(2)連携型特別選抜

	受検者数	合格者数
全 日 制	88	87

※連携型中高一貫教育校に係る特別選抜の募集定員は、入学定員内とし、特に定めない。

3 B日程

	B日程定員	受検者数	合格者数
全 日 制	1,628	229	187
多 部 制	144	41	29
定 時 制	560	45	40
合 計	2,332	315	256

○合格率 (%)		前年比 (ポイント)	○不合格者数 (人)	前年比 (人)
全日制の課程	81.7	-2.1	全日制の課程	42 +14
多部制の課程	70.7	-5.3	多部制の課程	12 +6
定時制の課程	88.9	+4.3	定時制の課程	5 -1

4 C日程

	C日程定員	受検者数	合格者数
多 部 制	61	8	4
定 時 制	520	27	18
合 計	581	35	22

5 定員内不合格

	定員内不合格者数		
	A日程	連携型特別選抜	B日程
令和6年度	118	1	59

令和6年度 高知県公立高等学校入学者選抜合格者等の状況（学校別）

No. 1 全日制

学 校 名	学科 (科) 名	入 学 定 員	A 日 程			B 日 程				合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数			
室 戸	総 合	80	26	26	24	56	3	3	1	25	55	25
安 芸	普 通	120 (89)	29	29	29	60	0	0	0	60	60	60
	工 業 (機土)	20 (19)	2	2	2	17	0	0	0	3	17	3
	工 業	20 (20)	6	6	4	16	1	1	0	4	16	4
	商 業 (ビジネス)	40 (36)	25	25	23	13	0	0	0	27	13	27
城 山	普 通	80	22	21	16	64	13	13	8	24	56	24
山 田	普 通	80	47	46	46	34	12	12	11	57	23	57
	探 究 (グローバル)	80	13	13	10	70	15	14	14	24	56	24
	商 業 (ビ探)	40	16	16	12	28	0	0	1	13	27	13
嶺 北	普 通	80	11	11	10	41	3	2	2	41	39	41
高知農業	農 業 (農総)	40	48	48	40	なし				40	0	40
	農 業 (畜総)	40	42	42	40	なし				40	0	40
	農 業 (森総)	40	25	24	26	14	0	0	1	27	13	27
	農 業 (環土)	40	21	21	17	23	6	6	4	21	19	21
	農 業 (食ビ)	40	39	39	40	なし				40	0	40
	農 業 (生総)	40	56	55	40	なし				40	0	40
高知東工業	工 業 (機械)	40	41	41	36	4	4	4	3	39	1	39
	工 業 (機械系)	40	9	9	9	31	4	4	4	13	27	13
	工 業 (電子)	40	32	32	29	11	1	1	0	29	11	29
	工 業 (電機)	40	15	13	12	28	6	6	5	17	23	17
岡 豊	普 通	240	235	234	231	9	6	6	6	237	3	237
	普 通 (芸術コース)	40	28	27	27	13	2	2	1	28	12	28
	普 通 (体育コース)	40	35	35	34	6	4	4	2	36	4	36
高 知 東	総 合	200	183	183	179	21	12	12	12	191	9	191
	看 護 (看護)	30	25	25	23	7	1	1	1	24	6	24
高知工業	工 業 (機械)	40	53	53	40	なし				40	0	40
	工 業 (電気)	40	44	43	40	なし				40	0	40
	工 業 (情技)	40	53	52	40	なし				40	0	40
	工 業 (工化)	40	34	34	40	なし				40	0	40
	工 業 (土木)	40	37	37	40	なし				40	0	40
	工 業 (建築)	40	53	53	40	なし				40	0	40
	工 業 (総デ)	40	28	28	34	6	4	4	4	38	2	38
高知追手前	普 通	280	199	196	194	86	8	8	7	201	79	201
高知丸の内	吾北 普 通	40	11	10	10	30	3	3	0	10	30	10
	普 通	140	145	144	140	なし				140	0	140
	チャレンジ A	10	7	7	6					6	4	6
高知小津	音 楽 (音楽)	30	6	6	6	24	2	2	2	8	22	8
	普 通	240	253	252	240	なし				240	0	240
高知国際	理 数 (理数)	40	26	26	26	14	3	3	2	28	12	28
	普 通	200 (200)	250	249	201	なし				201	0	201
	国 際 (グローバル)	80 若干名	9	9	4	なし				82	0	82
	D P	[20] [若干名]	[2]	[2]	[0]					[15]		[15]
伊野商業	商 業 (キャリア)	160	116	112	99	61	11	11	9	108	52	108
春 野	総 合	160	132	130	121	39	29	29	25	146	14	145
高 岡	普 通	80	30	30	24	56	9	9	6	30	50	30
高知海洋	水 産 (海洋)	80	24	23	20	60	13	12	9	29	51	29
	船舶職員養成課程	[10]	[5]	[5]	[1]	[9]	[0]	[0]	[0]	[1]	[9]	[1]
須崎総合	普 通	120	62	62	61	59	7	7	7	68	52	68
	工 業 (機械系)	20	26	26	20	なし				20	0	20
	工 業 (造船)	20	8	8	8	12	2	2	1	9	11	9
	工 業 (電情系)	20	8	8	9	11	2	2	1	10	10	10
	工 業 (電情)	20	9	9	9	11	1	1	1	10	10	10
	工 業 (シ工系)	20	3	3	3	17	2	2	1	4	16	4
	工 業 (住環)	20	15	15	16	4	0	0	0	16	4	16
佐 川	普 通	80	22	21	21	59	5	5	5	26	54	26
窪 川	普 通	80	28	28	24	56	5	5	3	27	53	27
樺 原	普 通	80	33	33	27	36	9	9	7	51	29	50
四 万 十	普 通	40	5	5	5	34	1	1	1	7	33	7
	普 通 (自環コース)	40	5	5	5	35	1	1	0	5	35	5

- （注1） 安芸、高知国際、中村の（ ）内の数字は、A日程の募集定員を示したものである。
- （注2） 高知国際高校D Pコース、高知海洋高校船舶職員養成課程の〔 〕は内数。
- （注3） 嶺北、樺原、四万十、清水の合格者総数には、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者数を含む。
- （注4） 安芸、高知国際、中村の合格者総数には、併設中学校からの進学者数を含む。
- （注5） A日程合格者数には、A日程の追検査による合格者を含む。

No. 2 全日制

No. 2 全日程												
学 校 名	学科(科)名	入 学 定 員	A日程			B日程				合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数			
大 方	普 通	80	35	33	31	49	7	7	7	38	42	38
幡多農業	農 業 (園シス)	40	23	23	22	18	0	0	0	22	18	22
	農 業 (アグリ)	40	12	12	11	29	0	0	0	11	29	11
	農 業 (グリーン)	40	19	19	18	22	0	0	0	18	22	18
	農 業 (コーディネート)	40	31	31	29	11	0	0	0	29	11	29
中 村	普 通	200 (150)	127	127	125	26	3	2	2	177	23	177
西土佐	普 通	40	3	3	3	37	1	1	1	4	36	4
宿毛工業	工 業 (機械)	20	9	9	8	12	1	1	0	8	12	8
	工 業 (自動車)	20	16	16	14	6	0	0	0	14	6	14
	工 業 (建設)	20	23	23	20	なし				20	0	20
	工 業 (建築)	20	19	19	18	2	0	0	0	18	2	18
	工 業 (電気)	40	9	9	11	29	1	1	0	11	29	11
	工 業 (情技)	40	32	32	30	10	1	1	1	31	9	31
宿 毛	総 合	120	63	63	59	61	7	7	7	66	54	66
清 水	普 通	80	0	0	0	40	2	2	2	42	38	42
県 立 計		4810 (4644)	3186	3159	2931	1628	233	229	187	3369	1444	3367

高知商業	商 業 (総合マ)	140	192	192	140	なし				140	0	140
	商 業 (社会マ)	70	86	86	70	なし				70	0	70
	商 業 (情報マ)	35	42	42	35	なし				35	0	35
	商 業 (スポマ)	35	37	37	35	なし				35	0	35
市 立 計		280	357	357	280	0	0	0	0	280	0	280

合 計	5090 (4924)	3543	3516	3211	1628	233	229	187	3649	1444	3647
-----	-------------	------	------	------	------	-----	-----	-----	------	------	------

(注1) 安芸、高知国際、中村の合格者総数には、併設中学校からの進学者数を含む。

(注2) A日程合格者数には、A日程の追検査による合格者を含む。

令和6年度 連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者等の状況(学校別)

学 校 名	学科(科)名	入 学 定 員	特別選抜			
			特 別 選 抜 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数
嶺 北	普 通	80	入学定員内	30	29	29
橋 原	普 通	80	入学定員内	17	17	17
四 万 十	普 通	40	入学定員内	1	1	1
	普 通 (自環コース)	40	入学定員内	1	1	0
清 水	普 通	80	入学定員内	40	40	40
合 計		320		89	88	87

令和6年度 高知県公立高等学校入学者選抜合格者等の状況（学校別）

多部制単位制

学 校 名	学科名	入 学 定 員 [成人]	A日程			B日程				C日程				合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数 [成人]
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員 [成人]	志 願 者 数 [成人]	受 検 者 数 [成人]	合 格 者 数 [成人]	C 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数			
中 芸	普 通 (昼間)	40	15	13	11	29	3	3	2					13	27	13
	普 通 (夜間)	40 [8]				40 [8]	2 [0]	2 [0]	2 [0]	38	3	3	2	4	36	4 [0]
高 知 北	普 通 (昼間)	80	65	56	45	35	12	12	8					53	27	53
	普 通 (夜間)	40 [8]				40 [8]	24 [1]	24 [1]	17 [1]	23	5	5	2	19	21	19 [1]
合 計		200 [16]	80	69	56	144 [16]	41 [1]	41 [1]	29 [1]	61	8	8	4	89	111	89 [1]

（注1） 成人の〔 〕は内数

定時制

学 校 名	学科（科）名	入 学 定 員 [成人]	A日程			B日程				C日程				合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数 [成人]
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員 [成人]	志 願 者 数 [成人]	受 検 者 数 [成人]	合 格 者 数 [成人]	C 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数			
室 戸	普 通	40 [8]				40 [8]	4 [0]	4 [0]	4 [0]	36	1	1	1	5	35	5 [0]
山 田	普 通	40 [8]				40 [8]	7 [0]	7 [0]	7 [0]	33	2	2	2	9	31	9 [0]
高知東工業	工 業（機械）	40 [8]				40 [8]	5 [0]	5 [0]	4 [0]	36	4	4	3	7	33	7 [0]
高知工業	工 業（機械）	40 [20]				40 [20]	3 [0]	3 [0]	3 [0]	37	0	0	0	3	37	3 [0]
	工 業（電気）	40 [20]				40 [20]	2 [1]	2 [1]	1 [0]	39	3	3	0	1	39	1 [0]
	工 業（土木）	40 [20]				40 [20]	3 [0]	3 [0]	1 [0]	39	0	0	0	1	39	1 [0]
	工 業（建築）	40 [20]				40 [20]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	1	0	0	1	39	1 [0]
高 岡	普 通	40 [8]				40 [8]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	2	2	2	3	37	3 [0]
須崎総合	普 通	40 [8]				40 [8]	3 [1]	3 [1]	3 [1]	37	3	3	1	4	36	4 [1]
佐 川	普 通	40 [8]				40 [8]	2 [0]	2 [0]	2 [0]	38	1	1	1	3	37	3 [0]
大 方	普 通	40 [8]				40 [8]	2 [0]	2 [0]	2 [0]	38	2	2	2	4	36	4 [0]
宿 毛	普 通	40 [8]				40 [8]	4 [0]	4 [0]	4 [0]	36	0	0	0	4	36	4 [0]
清 水	普 通	40 [8]				40 [8]	4 [0]	4 [0]	4 [0]	36	0	0	0	4	36	4 [0]
合 計		520 [152]				520 [152]	41 [2]	41 [2]	37 [1]	483	19	18	12	49	471	49 [1]

高知商業	商 業（商業）	40 [8]				40 [8]	4 [0]	4 [0]	3 [0]	37	9	9	6	9	31	9 [0]
------	---------	--------	--	--	--	--------	-------	-------	-------	----	---	---	---	---	----	-------

合 計		560 [160]				560 [160]	45 [2]	45 [2]	40 [1]	520	28	27	18	58	502	58 [1]
-----	--	-----------	--	--	--	-----------	--------	--------	--------	-----	----	----	----	----	-----	--------

（注1） 成人の〔 〕は内数

Ⅱ 学力検査(A日程及び連携型特別選抜)の実施結果

1 学力検査出題の方針

中学校学習指導要領（平成29年3月告示）にそって、基礎的・基本的な知識・技能の定着と、学習や実生活の場面において、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の力をみるものとした。

- 1 中学校における日常の学習活動に基づく内容とした。
- 2 出題する内容が一部の領域に偏らないようにした。
- 3 検査時間等を考慮し、適切な問題量とした。

2 学力検査結果の全体的な状況

(1) 学力検査受検者数等(令和6年3月5日実施分)

学力検査受検者数		
A日程学力検査受検者数	連携型中高一貫教育校に係る特別選抜受検者数	計
3,585人 (3,472人)	88人 (71人)	3,673人 (3,543人)

(注) ()内は令和5年度の受検者数である。

(2) 平均点(各教科とも50点満点)

教科	国語	社会	数学	理科	英語	総合
平均点	21.7 (21.3)	19.0 (25.1)	18.3 (19.2)	19.9 (20.5)	22.9 (24.6)	101.6 (110.7)

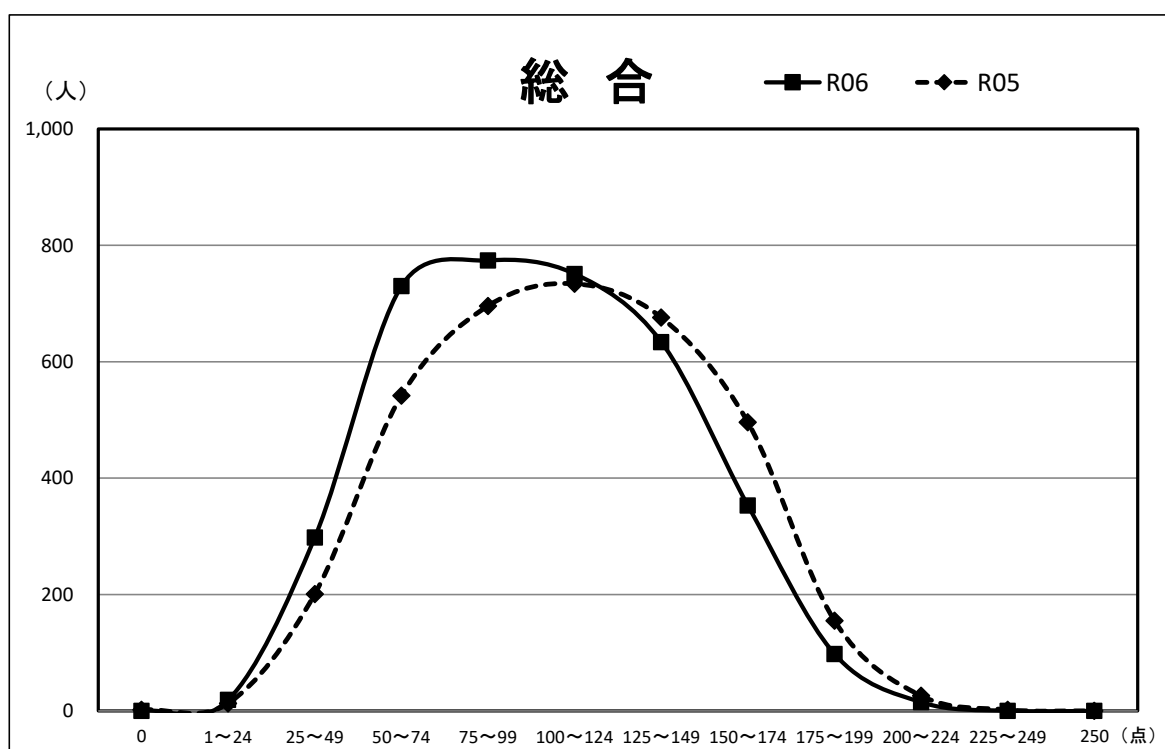
(注) ()内は令和5年度の値である。

(3)個人別総合得点度数分布表(250点満点)

得点階級	度数	得点階級	度数	得点階級	度数	得点階級	度数
0～ 4	1 (2)	65～ 69	149 (114)	130～134	144 (148)	190～194	14 (19)
5～ 9	1 (0)	70～ 74	164 (124)	135～139	126 (145)	195～199	6 (10)
10～14	1 (1)	75～ 79	156 (120)	140～144	104 (124)	200～204	7 (10)
15～19	5 (6)	80～ 84	158 (151)	145～149	113 (129)	205～209	5 (5)
20～24	11 (6)	85～ 89	143 (152)	150～154	96 (124)	210～214	1 (8)
25～29	22 (13)	90～ 94	164 (125)	155～159	91 (105)	215～219	2 (1)
30～34	34 (28)	95～ 99	153 (148)	160～164	64 (116)	220～224	0 (2)
35～39	59 (34)	100～104	164 (134)	165～169	54 (85)	225～229	0 (2)
40～44	77 (63)	105～109	141 (154)	170～174	48 (66)	230～234	0 (0)
45～49	106 (63)	110～114	170 (150)	175～179	41 (48)	235～239	0 (0)
50～54	140 (75)	115～119	144 (146)	180～184	24 (48)	240～244	0 (0)
55～59	132 (92)	120～124	132 (150)	185～189	13 (30)	245～250	0 (0)
60～64	145 (137)	125～129	147 (130)				

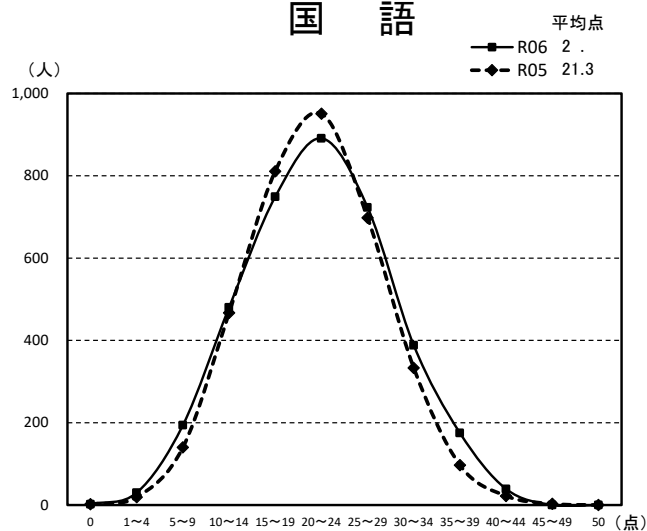
(注) ()内は令和5年度の値である。

平均点 101.6 (昨年度110.7)

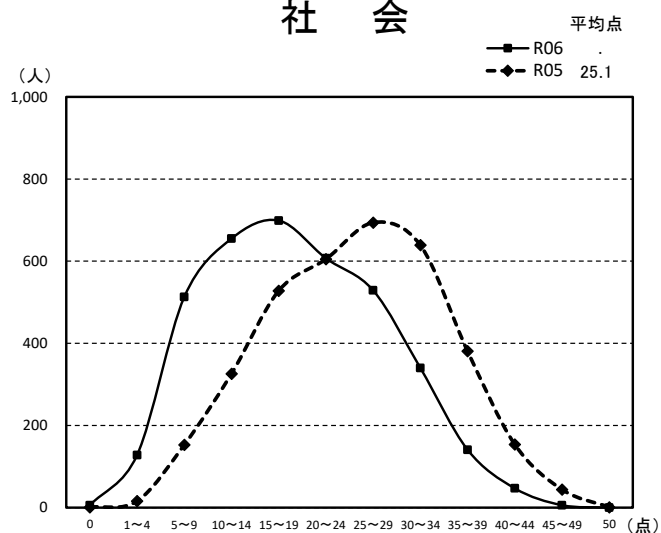


(4)教科別得点度数グラフ

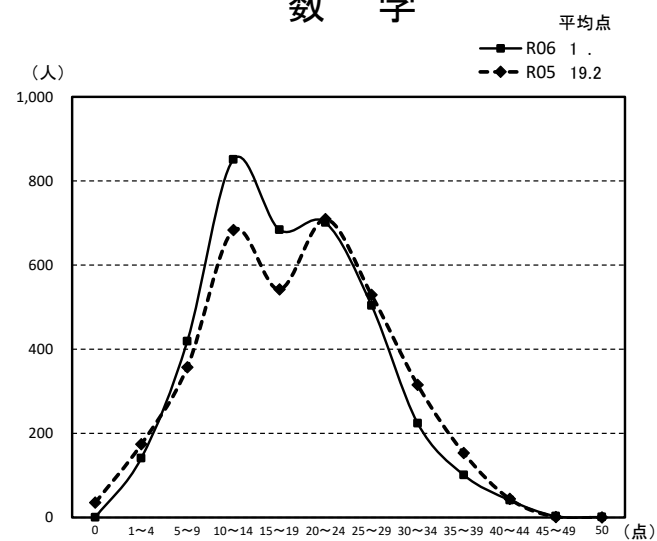
国 語



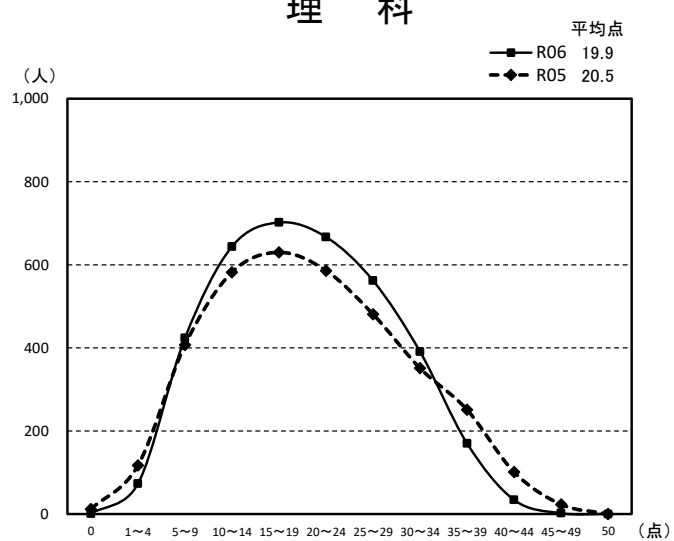
社 会



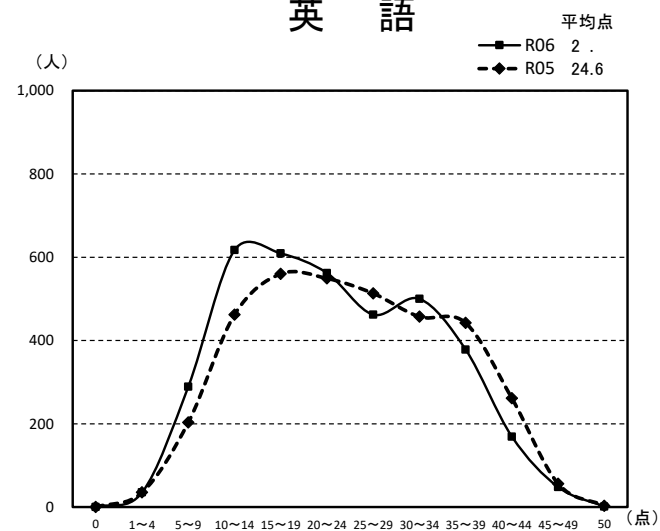
数 学



理 科



英 語



(5)過年度比較

平均点の推移(各教科とも50点満点)

	国語	社会	数学	理科	英語	総合
令和2年度	20.4	19.4	19.0	23.3	24.7	106.8
令和3年度	22.6	24.9	21.1	22.0	23.6	114.2
令和4年度	22.4	23.4	16.2	19.9	20.6	102.5
令和5年度	21.3	25.1	19.2	20.5	24.6	110.7
令和6年度	21.7	19.0	18.3	19.9	22.9	101.6
前年比増減	＋0.4	－6.1	－0.9	－0.6	－1.7	－9.1

満点の人数

	国語	社会	数学	理科	英語	合計
令和2年度	0	0	0	0	1	1
令和3年度	0	1	1	1	2	5
令和4年度	0	0	0	0	0	0
令和5年度	0	1	0	0	3	4
令和6年度	0	0	1	0	1	2
前年比増減	±0	－1	＋1	±0	－2	－2

0点の人数

	国語	社会	数学	理科	英語	合計
令和2年度	6	3	49	0	0	58
令和3年度	1	0	23	1	0	25
令和4年度	1	2	79	6	3	91
令和5年度	2	1	35	12	0	50
令和6年度	2	6	0	1	0	9
前年比増減	±0	＋5	－35	－11	±0	－41

※令和6年度学力検査における、数学の2点の人数は28名

250点満点で200点以上と74点以下の人数

()内は%

	200点以上	74点以下
令和2年度	18 (0.47)	967 (25.21)
令和3年度	19 (0.52)	705 (19.41)
令和4年度	10 (0.27)	1,067 (28.87)
令和5年度	28 (0.79)	758 (21.39)
令和6年度	15 (0.41)	1,047 (28.51)
前年比増減	－13	＋289

※ 令和3年度までは平成20年度告示、令和4年度から平成29年度告示の中学校学習指導要領に基づく出題。

Ⅲ 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の教科別状況

国 語

1 出題のねらい

言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方、我が国の言語文化に関する知識及び技能と、国語で正確に理解し適切に表現する思考力・判断力・表現力等の力をみることをねらいとした。

- (1) 言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方、我が国の言語文化については、漢字の読み書き、書写、文法の基礎的な事項、情報と情報との関係に関する事項、伝統的な言語文化に関する事項などについての力をみるものとした。
- (2) 「書くこと」については、文章の展開に即して内容を捉えたり、文章の内容について自分の考えをもったりしたうえで、目的や必要に応じて適切に書き表す力をみるものとした。
- (3) 「読むこと」については、文脈の中における語句の意味を的確に捉えるとともに、文章の構成や論理の展開などに注意しながら、内容を正確に理解する力をみるものとした。

2 結果の概要

平均点は21.7点で、昨年度より0.4点上がった。漢字の読み、行書の特徴、助動詞の働き、情報の取り出しについては一定の力が認められる。漢字の書き、言葉の特徴や使い方、情報と情報の関係についての理解が十分とは言えない。また、目的に応じて文章の内容を把握して要約することに課題がある。

(1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
平 均 点	21.7	21.3	22.4	22.6	20.4

(2) 正答率の推移

年 度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
言葉の特徴や使い方・ 漢字・書写・表現の技法	57.8	56.0	57.3	56.6	49.9
現 代 文	26.0	26.7	30.8	24.1	26.4
古 典	39.8	31.7	51.6	44.4	44.6

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント（【 】は該当問題番号）

- ☞① 文や文章に関する言葉の特徴や使い方の理解を深めさせること。【□(四)1, 2, □(三)など】

品詞の類別や、文節と文節の関係についての理解が十分でない。記述で解答する問題において、表記や語句の用法、叙述の仕方が十分でないため誤答になった解答も多い。言葉の単位やはたらき、文節どうしの関係など文の構成についての理解は、言葉を組み立て文にする過程で、主語、述語、修飾語、被修飾語などの語順や照応、接続などが整った表現をするための支えとなる。文や文章に関する言葉の特徴や使い方の理解を深めさせるために、「書くこと」の推敲の指導との関連を図りたい。また、日頃の言語活動において生徒が書いた短文を互いに読み合う場面も、読み手に伝わる表現になっているかを確認する機会として活用させたい。

- ☞② 目的に応じて必要な情報に着目して内容を把握し、要約する力を身に付けさせること。

【□(三), □(一), (二)】

問いに応じて文章中の情報に着目して内容を把握し、必要な情報を取り出して要約する問題の正答率が低い。解答の際に、着目した情報を単純に抜き出すのではなく、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見を読み分けて情報を整理しながら内容を捉え直し、複数の具体的な表現を抽象的な表現に置き換えて簡潔に要約できる力を高める指導が必要である。

問 題			正 答	正答率	誤答率	無答率
一	(一)	1	さくいん	79.9	18.6	1.5
		2	すこ（やかに）	94.4	5.6	0
	(二)	1	貯蔵	48.1	39.7	12.2
		2	盛（る）	84.0	13.2	2.8
	(三)		イ	70.7	28.8	0.5
	(四)	1	連体詞	27.7	65.9	6.4
		2	エ	57.7	42.0	0.3
		3	ア	71.2	28.5	0.3
		4	ウ	20.6	79.4	0
		5	何度も改行して動詞を継続させている	82.4	14.8	2.8
		6	後ろの方に置く	35.4	56.4	7.9
				部分点 0.3		
	7	ア	21.1	78.6	0.3	
二	(一)	代わり	36.1	59.1	4.8	
	(二)	エ	68.4	31.6	0	
	(三)	(例)さまざまな音楽的要素を一致させると、かえって味気のない音になったことを面白いと捉え、オーケストラサウンドの魅力は奏者の奏でる音が一致しないところにある	3.8	60.6	4.6	
			部分点 31.0			
	(四)	イ	38.4	61.3	0.3	
三	(一)	(例)文学研究者には、名作に目を向けてもらう努力をするという使命があり、人々を読みたい気持ちにさせるように作品の価値を明らかにし、味わうための読み方を示す必要がある。	6.9	39.9	7.6	
			部分点 45.6			
	(二)	(例)筆者は、文学を読むことで別の誰かの目で世界を見ることができ、人間に対する関心を深め、想像力を広げることができると述べている。私も文学を読むことで、人間の心理や社会のしくみなどを知ることができたので、文学は視野を広げてくれると考える。	2.5	58.0	15.3	
			部分点 24.2			
四	(一)	つかいよう	64.4	33.6	2.0	
	(二)	エ	27.2	72.5	0.3	
	(三)	イ	22.4	77.3	0.3	
	(四)	ウ	45.3	53.9	0.8	

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した393人分の答案を対象として算出した。

社会

1 出題のねらい

「地理的分野」、「歴史的分野」、「公民的分野」から均等に出題し、我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関する理解と、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力をみることをねらいとした。

- (1) 「地理的分野」については、地理的事象を地図や資料との関係において出題し、世界と日本の地域構成、世界や日本の様々な地域に関する自然環境や産業などからみた地域的特色などについて問うものとした。
- (2) 「歴史的分野」については、歴史的事象を年表や資料との関係において出題し、我が国の古代から近現代までの各時代の特色と移り変わり、我が国と世界の歴史上の関連などについて問うものとした。
- (3) 「公民的分野」については、現代の社会的事象を資料との関係において出題し、現代社会の特色、政治のしくみ、経済のしくみ、国際社会の諸課題などについて問うものとした。

2 結果の概要

平均点は19.0点で、昨年度より6.1点下がった。全分野を通して、基本的事項の定着が十分とは言えず、社会的事象に関してその内容や背景について適切に表現する力や、資料から情報を読み取り、既習事項と関連付けて思考・判断・表現する力に課題がある。また、歴史的分野において、各時代の特色を踏まえ、歴史の大きな流れを捉える力が十分ではない。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
平 均 点	19.0	25.1	23.4	24.9	19.4

- (2) 正答率の推移

年 度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
地理的分野	36.8	65.7	54.3	46.2	40.1
歴史的分野	37.1	31.8	49.7	43.3	34.9
公民的分野	42.0	55.2	47.4	61.6	50.9

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント（【 】は該当問題番号）

- ☞① 社会的事象や歴史的な事柄を正確に理解させること。【1】2，【2】5，【3】1(3)など

社会的事象や歴史的な事柄を正確に理解していないため解答できていない誤答が多くみられた。正確に理解させるためには、特徴や特色、因果関係など、どのような点に着目すればよいかを教科書を踏まえて明確に示すとともに、復習や振り返りの中で、学習内容を表現させて確認する場面を設けて丁寧に指導することが大切である。

- ☞② 資料等を活用して思考・判断・表現する力を付けさせること。【4】1(2)，【6】2(3)など

資料から読み取った情報と既習事項とを関連付けて、論理的に表現する力が十分でない。授業の中で資料を読み取る際には、資料から得た情報を整理し、既習事項と関連付けて考察し、自分の考えを持つことが重要である。その上で、自分の考えを論理的に説明できるように、根拠を示しながら表現する活動を繰り返し実施することが必要である。

- ☞③ 各時代の特色を踏まえ、歴史の大きな流れを捉える力を付けさせること。【2】3，4，【5】4

我が国の各時代の特色や、それを踏まえた歴史の大きな流れを捉える力が十分ではない。各時代の特色を理解するためには、政治、経済・社会、文化などの面から、各時代を多面的に考察して、各時代のつながりや違いを把握することが重要である。その上で、時代ごとに略年表を作成するなどの活動を行い、時代を大観することで歴史の流れを捉えさせたい。

問 題			正 答					正答率	誤答率	無答率	
1	1	(1)	エ					57.8	40.7	1.5	
		(2)	イ, ウ					20.6	79.4	0	
	2	シラス					22.4	75.3	2.3		
	3	ア					26.2	73.5	0.3		
	4	(例)東京都は、周辺の県と比べて、大学・大学院数や事業所数が多い一方で、住宅地の平均地価が高いため、周辺の県に住んで昼間だけ東京都に通学や通勤をする人が多いから。					45.8	37.2	6.1		
					部分点 10.9						
2	1	ウ					66.6	33.1	0.3		
	2	(例)天皇を頂点として、皇族・貴族や役人たちが全国を支配する中央集権国家をつくるため。					46.1	40.2	9.9		
							部分点 3.8				
	3	イ					25.2	74.8	0		
	4	ウ → ア → イ → エ					26.0	74.0	0		
5	工場制手工業					16.3	65.9	17.8			
3	1	(1)	ウ					72.0	27.7	0.3	
		(2)	ア					45.8	53.9	0.3	
		(3)	(例)最高裁判所長官を指名する。					14.5	71.5	13.5	
						部分点 0.5					
	2	(例)体育館と音楽室の空きが全くないように、無駄なく使用できている。					15.5	73.0	11.2		
							部分点 0.3				
3	教育					65.9	32.1	2.0			
4	1	(1)	名称	大西洋				54.4	44.8	0.8	
			記号	C							
		(2)	(例)大西洋を北上する暖流の北大西洋海流と、その上空を吹く偏西風の影響を受けるため。					20.9	61.8	14.0	
								部分点 3.3			
	(3)	イ					28.8	71.2	0		
	2	エ → ア → イ → ウ					37.2	62.5	0.3		
3	a	ウ	b	ア	c	イ	54.2	45.8	0		
5	1	(例)日本では、外国と比べて、少ない量の銀で同じ量の金と交換することができたから。					44.5	40.0	9.9		
						部分点 5.6					
	2	エ					44.5	55.5	0		
	3	X	朝鮮		Y	ロシア		28.5	70.2	1.3	
	4	エ → ウ → ア → イ					12.5	87.2	0.3		
5	石油危機					60.8	29.8	9.4			
6	1	イ					41.5	57.5	1.0		
	2	(1)	A	企業		B	家計		61.1	36.6	2.3
		(2)	エ					54.2	44.8	1.0	
		(3)	記号	ウ				39.2	56.7	4.1	
			理由	(例)出産等のため 25 歳から 34 歳にかけての就業率が一度低下するア～ウが女性のグラフであり、2020 年は、その中で就業率が最も高いから。				9.9	79.9	9.4	
						部分点 0.8					

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から 10 人に 1 人の割合で抽出した 393 人分の答案を対象として算出した。

数 学

1 出題のねらい

「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」から出題し、数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などの理解、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能と、数学を活用して事象を論理的に考察したり、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察したり、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したりする力をみることがねらいとした。

- (1) 「数と式」では、数の概念についての理解の程度、文字を用いた式に表現したり、文字を用いた式の計算や処理をしたりする力をみるものとした。
- (2) 「図形」では、図形の内容、図形の性質や関係についての理解の程度、数学的な推論に基づいて考察し表現する力をみるものとした。
- (3) 「関数」では、グラフの特徴についての理解の程度、関数を用いて事象を捉え表現する力、関数と図形を関連付けて考察する力をみるものとした。
- (4) 「データの活用」では、目的に応じて収集した資料を処理し、その資料の傾向を読み取り判断する力、具体的な事柄について起こり得る場合を順序よく整理して正しく数え上げ、不確定な事象の確率を求める力をみるものとした。

2 結果の概要

平均点は18.3点で、昨年度より0.9点下がった。「数と式」、「データの活用」の領域における基礎的・基本的事項については、一定の力が付いていると思われるが、文字を用いて式を表すことや、等式を変形することなどに課題がみられる。「図形」、「関数」の領域については、基礎的・基本的事項の定着が不十分である。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
平均点	18.3	19.2	16.2	21.1	19.0

- (2) 正答率の推移

年 度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
数と式	53.2	50.3	44.3	66.5	54.3
図 形	11.0	23.0	13.3	20.5	13.5
関 数	11.0	29.9	33.1	31.1	38.5
データの活用	34.8	48.7	35.6	39.5	36.8

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

- ☞① 数量の関係を文字を用いた式で表し、目的に応じて変形できるようにさせること。【1】(3)
具体的な場面で数量の関係を文字を用いた式で表し、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することに課題がある。まずは、文字の代わりに具体的な数で考えたり、図に表したりして事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字を用いた式で表す。その後、目的に応じて変形するなど段階を踏んで指導することが大切である。
- ☞② 日常生活や社会の事象における問題の解決に、数学を活用できるようにさせること。【4】
日常生活や社会の事象を数学的に解釈し、問題を解決することに課題がある。具体的な場面において、表、式、グラフなどを用いて問題解決する場面を設定し、それらをどう活用したかについて数学的に説明できるように指導することが大切である。
- ☞③ 事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考え、文章で説明できるようにさせること。【6】(1)
筋道を立てて考え、説明することに課題がある。結論を導くためには何がわかればよいかを判断し、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質を見いだしたりすることで、筋道を立てて事柄が成り立つ理由を考える活動を行い、自らの考えを言葉や式で説明できるように指導することが大切である。

問 題		正 答		正答率	誤答率	無答率
1	(1)	①	-8	92.6	7.4	0
		②	$\frac{3x-11y}{10}$	75.8	21.9	2.3
		③	$-6b^3$	66.7	30.0	3.3
		④	$\sqrt{3}$	63.1	30.5	6.4
	(2)	$\mathcal{A}$		47.8	52.2	0
	(3)	$b = -\frac{2}{5}a + 6$		31.3	60.3	8.4
	(4)	$x = 4 \pm 2\sqrt{3}$		42.0	46.8	11.2
	(5)	$a = -\frac{1}{6}$		7.6	74.8	17.6
	(6)	120 度		23.4	59.6	17.0
	(7)	$\frac{3}{5}$		41.5	51.4	7.1
	(8)	作図のために示した図が不適切であったため、 受検者全員を正答扱いとした。		—	—	—
2	(1)	36		75.0	20.9	4.1
	(2)	ア	n^2	15.5	72.8	11.7
		イ	$n-1$			
		ウ	n^2-n+1			
	(3)	855		21.9	55.7	22.4
3	(1)	0.75		37.2	55.2	7.6
	(2)	32.5 回		20.4	70.7	8.9
	(3)	$\mathcal{A}$, ウ		40.2	59.3	0.5
4	(1)	$y = -\frac{3}{5}x + 6$		5.1	71.2	23.7
	(2)	13 時 24 分に、駅から 3.6 km の地点ですれ違う。		10.7	61.6	27.7
5	(1)	(2 , 5)		38.9	49.4	11.7
	(2)	$y = \frac{1}{4}x + 3$		3.3	51.7	45.0
	(3)	四角形AMGF : 四角形MBHG = 7 : 9		0.3	53.6	46.1

(次のページに続く)

問 題		正 答	正答率	誤答率	無答率
6	(1)	【証明】(例) $\triangle ABD$と$\triangle CED$において 正三角形の辺の長さは等しいから $DA = DC$……………① $DB = DE$……………② また $\angle ADB = 60^\circ - \angle BDC$……………③ $\angle CDE = 60^\circ - \angle BDC$……………④ ③, ④より $\angle ADB = \angle CDE$……………⑤ ①, ②, ⑤より 2組の辺とその間の角がそれぞれ等しい。 したがって $\triangle ABD \equiv \triangle CED$	8.1	39.4	37.2
	(2)	$4\sqrt{3} \text{ cm}^2$	1.5	36.4	

※ 正答率等の数値については，学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した393人分の答案を対象として算出した。

理 科

1 出題のねらい

「第1分野」、「第2分野」から均等に出題し、自然の事物・現象についての理解、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能と、観察、実験などを行って自然の事物・現象を科学的に探究する力をみることをねらいとした。

- (1) 「第1分野」については、静電気と電流、気体の発生と性質、運動の規則性、化学変化と物質の質量などについて問うものとした。
- (2) 「第2分野」については、生物の観察、気象要素及び霧や雲の発生、自然界のつり合い、身近な地形や地層、岩石の観察及び地層の重なりと過去の様子などについて問うものとした。

2 結果の概要

平均点は19.9点と昨年度に比べ0.6点下がった。第1分野・第2分野ともに、科学的に思考するための基盤となる、科学的用語や事象についての知識及び観察、実験の技能において、一定の習得が認められる。一方で、特に第1分野において、実験をイメージで理解したり、結果を数的に正しく処理したり、既習事項と関連づけて考察したり表現したりする力には課題がみられる。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

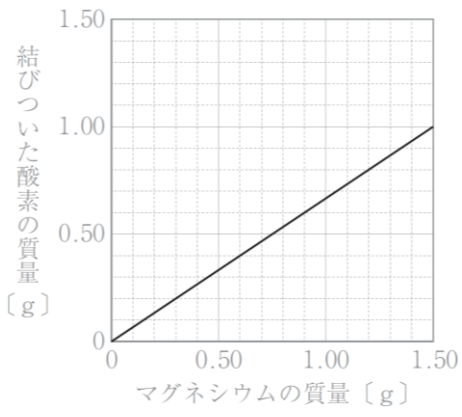
年 度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
平 均 点	19.9	20.5	19.9	22.0	23.3

- (2) 正答率の推移

年 度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
第1分野	37.9	48.1	30.2	44.8	37.0
第2分野	47.0	39.8	47.9	50.9	61.4

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

- ☞① 思考・判断・表現の基本となる知識を確実に身に付けさせること。【12(2), 4(3), 21(1), 43】
基本的な知識・技能において、十分に定着していない事項がある。知識・技能は、思考・判断・表現するための基盤となる重要な力であり、繰り返しアウトプットさせたり、相互に関連付けて理解させたりすることによって、活用できる水準にまで高めさせる必要がある。
- ☞② 実験データを処理するための基礎的な数学的スキルを身に付けさせること。【32, 4(1), 51など】
与えられた数値を加減乗除することで数値を求めたり、求めた数値をグラフや比で表現したりする問題で、正しく立式できなかったことで生じた誤答だけでなく、数学的に適切でない形式で表現されている誤答も目立つ。求められている情報は何かを理解し、与えられたデータをどのように処理すれば求められた数値を得られるのか、自分が書いた解答は数学的に正しいのかどうかを思考・判断できる能力を、体験的に身に付けさせる必要がある。
- ☞③ 科学的事象について、言葉で適切に表現できるようにさせること。【21(2), 31, 44など】
実験操作の目的や、科学事象が生じる原因を言葉で説明する問題で、適切に表現できていない誤答が多い。「書く」機会を増やし、教師が生徒の解答を適切に指導したり、生徒が相互に参照したりすることで、伝えたいことが確実に伝わる文を書くことができる力を身に付けさせたい。
- ☞④ 理科の見方・考え方を働かせる視点で授業改善を図ること。【55】
理科の学習では、自然の事物・事象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関連付けたりするなどの科学的に探究する手法を用いて考えることが重要であるが、十分に身に付いていない。この傾向は、特にエネルギーの領域において顕著である。「一人1台端末」を活用して、おもりや台車の移動のようすを動画等で記録したり、記録テープの長さや物体にはたらく力の方向や大きさと関連付けて分析したりすることで、理科の見方・考え方を働かせながら物体の運動について理解を深められるよう授業展開を工夫したい。

問 題			正 答					正答率	誤答率	無答率
1	1	(1)	イ					50.9	49.1	0
		(2)	ア					52.9	47.1	0
	2	(1)	①	電子				72.8	22.6	4.6
			②	B	+	C	－	55.2	44.8	0
		(2)	ア					36.9	63.1	0
	3	(1)	①	露点				72.0	23.2	4.8
			②	55.7 %				17.0	70.5	12.5
		(2)	ウ → イ → ア					63.1	36.6	0.3
	4	(1)	水上置換法					86.3	10.4	3.3
		(2)	(例) 水に溶けにくい性質					64.1	29.0	6.9
		(3)	記号	E	化学式	CO ₂	46.3	51.9	1.8	
2	1	(1)	ア, ウ					27.5	72.5	0
		(2)	(例) デンプンを分解し, 二酸化炭素を発生させるはたらき。					8.4	83.5	8.1
		(3)	イ					50.1	49.9	0
	2		ア					80.4	19.6	0
	3	(1)	酸素					56.8	39.4	3.8
		(2)	イ, オ					33.8	65.7	0.5
	4	生態系					49.3	42.0	8.7	
3	1	(例) マグネシウムを完全に酸化させるため。					45.3	44.8	9.9	
	2	結びついた酸素の質量 [g] 					59.7	34.4	5.9	
	3	2.10 g					50.4	41.5	8.1	
	4	(1)	4 : 1					48.6	46.6	4.8
		(2)	3 : 8					13.5	75.8	10.7

問 題		正 答						正答率	誤答率	無答率	
4	1	風化						56.3	29.5	14.2	
	2	(例) 火山の噴火						66.9	28.0	5.1	
	3	エ						26.2	73.5	0.3	
	4	(例) 暖かく 浅い海の底						48.3	42.5	9.2	
	5	ウ						52.9	46.8	0.3	
	6	イ						33.8	65.2	1.0	
5	1	60 cm/s						4.8	86.0	9.2	
	2	ア						24.2	75.3	0.5	
	3	30 cm						4.6	82.2	13.2	
	4	X	ウ	Y	イ	Z	イ	20.1	79.6	0.3	
	5	おもりが床につくまで						1.5	82.2	16.3	
		(例) 速さが増加する割合が小さくなる。									
		おもりが床についた後									
		5	(例) 速さがだんだん遅くなる。						9.4	70.5	20.1
			理由								
		(例) 台車が運動の向きとは逆向きの力を受けるから。									

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した393人分の答案を対象として算出した。

英語

1 出題のねらい

英語の特徴やきまりに関する知識及び技能と、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の3領域における、情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりする思考力・判断力・表現力等の力をみることをねらいとした。

- (1) 「聞くこと」については、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ったり話の概要を捉えたりする力、相手からの質問に答えたりする力などをみるものとした。
- (2) 「読むこと」については、日常的な話題について、書かれたものから必要な情報を読み取ったり文章の概要を捉えたりする力、社会的な話題について、文章の要点を捉える力などをみるものとした。
- (3) 「書くこと」については、正しい語順で文を構成する力、場面や状況に応じて適切な語句や文を選んだり書いたりする力、日常的な話題について自分の考えや気持ちなどを伝えたり、社会的な話題に関して考えたこととその理由を書いたりする力などをみるものとした。

2 結果の概要

平均点は22.9点で、昨年度より1.7点下がった。日常的な話題について、情報を聞き取る力は概ね身に付いている。聞いたり読んだりした話題に対して自分の考えを英語で書く際には、考えを構成するのに必要な情報まで十分に把握することができていない。また、自分の考えを正確に表現することができておらず、基本的な語彙や文法事項の定着に課題がある。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
平 均 点	22.9	24.6	20.6	23.6	24.7

- (2) 正答率の推移

年 度		R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
理解の能力	聞くこと	72.0	58.2	53.8	57.6	67.6
	読むこと	55.8	58.0	44.3	52.6	59.8
表現の能力	書くこと	20.0	29.3	23.6	27.4	22.5

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

- ☞① 基本的な語や文法事項を理解し、情報を正確に捉える力を付けさせること。【1】D, 【4】1】

聞いたり読んだりして把握した内容についての問いに、適切に応じることに課題がある。文脈や場面から自分の置かれた状況などを判断し、適切に表現する問題では、状況を誤って判断している解答が多くみられる。円滑なコミュニケーションの基礎は、基本的な語彙の定着や、文法事項や言語の働きを理解することにある。言語活動の際には、語彙や文法事項の習得の必要性や有用性を実感させようでその知識を活用させ、繰り返し発信させるだけでなく、生徒が語彙や文法事項を正しく理解しているかどうかにも留意して、指導することが必要である。

- ☞② 自分の言いたいことが伝わるように書き表す力を付けさせること。【4】2】

日常的な話題について、自分の考えを文章で書くことに課題がある。文章を書く際は、文章構成の特徴を意識しながら一貫性のある文章を書くことが重要である。またよりよく読み手に伝わるように、自分の言いたいことに最もふさわしい表現形式を工夫して書き表すことも必要である。文構造や文法事項を正しく用いて書くこととあわせて、日常的・社会的な話題を取り上げた言語活動を通して、自分の意見や感想を深めて書くことに取り組ませる必要がある。

問 題			正 答	正答率	誤答率	無答率
1	A	No. 1	ア	80.7	19.3	0
		No. 2	イ	76.3	23.7	0
		No. 3	エ	70.0	30.0	0
	B	No. 1	イ	67.7	32.3	0
		No. 2	ウ	49.1	50.6	0.3
	C	No. 1	エ	85.0	15.0	0
		No. 2	ウ	86.5	13.5	0
		No. 3	イ	60.8	39.2	0
	D		(例) I usually watch TV with my family after dinner. I like to watch soccer games.	29.3	28.5	10.4
部分点 31.8						
2	1	(1)	library	31.8	52.9	15.3
		(2)	introduce	3.8	70.8	25.4
	2	(1)	not only delicious but also	14.5	83.4	1.3
				部分点 0.8		
		(2)	important for you to keep	39.7	59.5	0.8
				部分点 0		
		(3)	is the girl wearing a yellow hat	43.5	51.7	1.0
				部分点 3.8		
	3	(1)	ア	38.7	61.0	0.3
(2)		ウ	22.4	77.6	0	
3	1	(1)	エ	63.9	36.1	0
		(2)	イ	58.0	41.7	0.3
	2	(1)	ウ	69.0	31.0	0
		(2)	イ	49.1	50.6	0.3
	3	(1)	ウ	64.6	35.4	0
		(2)	エ	67.6	32.1	0.3
		(3)	ア → ウ → エ → イ	69.2	30.8	0
4	1	1 文目 (例) I would like to tell them about our town’s festival because many people love it.	8.4	47.6	21.1	
			部分点 22.9			
		2 文目 (例) I want them to know about our town’s traditional dance and beautiful fireworks which we enjoy at the festival.	6.9	46.1	27.2	
			部分点 19.8			
	2	(例) I would go to the future. I would like to see more advanced robots. I would like to communicate with those robots and make friends with them.	1.0	22.9	19.6	
			部分点 56.5			

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した393人分の答案を対象として算出した。

高知県教育委員会事務局高等学校課

高知市丸ノ内 1－7－5 2

電 話 (088) 821-4907

F A X (088) 821-4547